

黃庭經



上奇黃庭下有關元前有幽闕後有命門吸爐外出  
入丹田審能行之可長存黃庭中人衣朱衣闕門壯籥  
蓋而扉幽闕俠之高巍固丹田之中精氣微玉池清水上  
生肥靈根堅志不衰中池有士服赤朱橫下三十神所居  
中外相距重閑之神爐之中務脩治玄廟氣管受精符  
急固子精以自持宅中有士常衣絳子能見之可不病橫  
理長尺約其上子能守之可無恙呼翁爐間以自償保守  
兒堅身受慶方寸之中謹蓋藏精神還歸老復壯俠  
以幽闕流下竟養二十年不至道不煩不旁近

靈臺通天臨中野方寸之中至關下玉房之中神門戶

# 「落ち穂拾い記」

## 『停雲館帖』(上)

(36)

(図版①) 王羲之小楷三種



停雲館帖 (図版③)

(図版⑤) 清雅堂本

(図版④) 書道博物館本

重刻本 原刻・家藏本 清雅堂本



歴代の法帖に収録され、伝来する魏晉の鍾繇や王羲之の小楷帖は、大変魅力的であり、多くの方に学ばれ、各種の影印法帖が伝えられている。20代の半ばに、江戸時代の漢詩を善くした梁川星巖、戦前の篆刻家・園田湖城旧蔵の王羲之小楷帖を求めて、嬉しくて、大学の恩師・伊東參州先生に題簽を書いていただいたことがある(図版①)。その後、古雅な趣の表紙を付した小楷帖等を入手した。どのような系統の小楷帖であるか、各種の影印資料などと比較している内に、今回王國版に示した王羲之の「黄庭經」を始めとして顏真卿の「小字麻姑山仙壇記」等九種を収録した帖が、明の偉大な書法家・文徵明(1470~1559)が制作した「停雲館帖」の卷一の小楷帖の一部であることを知った(図版③)。「停雲館帖」は、明代を代表する書法全集の一つであり、名帖とされている。全十二巻からなり、魏の鍾繇、王羲之を始めとして晋唐、宋元明時代の89人の百余件の名蹟を収録する。作品の収集・鑑定・編集を文徵明が行い、篆刻家として著名な2人の息子・文彭、文嘉等が製作に携わり、完成までの20数年の歳月を要したとされる。全二巻の原石拓は得難く、流布する多くが原石が壊れて、その後に再度作られた重刻本とされる。原刻本の巻一「黄庭經」は、始めの数行上部の文字部分に係るよう、小さな石花(キズ)が沢山見ることが出来る。重刻本は、この石花が全くない。拡大して比較すると小字であるが、原刻と重刻は、全く異なる(図版②)。家藏の小楷九種本は、巻頭の「晋唐小楷帖卷一」の隸書のタイトル部分は切り捨てられているが、原刻拓である。戦前、中村不折翁の書道博物館本が「停雲館法帖」(全十二巻)として西東書房から影印され(図版④)、また昭和17年に清雅堂から、「原刻初拓停雲館法帖萃」として三冊・巻一、二、四のみが、コロタイプ精印されており(図版⑤)。この2件は、原刻拓である。巻一の巻頭は、右頁の主圖版と同石拓であることを示している。

伊藤滋(書斎名・木鶏室)

# 書道芸術院 令和の群像 (2022)



九條純代

私は、東京オリンピックが開催された年、石川県金沢市にて、三姉妹の三女として生まれました。金箔生産日本一。輪島塗り、九谷焼、加賀友禅など日本伝統文化を重んじ、古き良きものを大事にしながら、新しいものを生み出す研究を続けています。伝統を守る事とは、根幹を忘れないことであると思います。

「かな」も古典、古筆を基とし、「現代かな」をして、書の幅を広げています。私は作品を考えるに、チャレンジと思い草稿で時間を使いやし、作品サイズや紙の色など、表具をして仕上がった作品のイメージを膨ませながら草稿します。草稿が決まると書き込みに入るのですが、思う様な作品にならぬ悩む時もあります。線の流れ、強弱、墨

志高く、かなが心から好きだったのじょうう。その気持ちは、師匠である下谷洋子先生に引き継がれ、「かなが好きで好きで、たまらない」と言葉で表現される。私も好きなのであろうが「好き」と言葉にしては言えない。作品を生む苦悩の方が勝るからだと思います。

東京2020大会応援企画「現代の書選抜展示」の出品者として選出され学びの場をいただけたことは、感謝の思いでいっぱいであったが、苦しみの連続で、未熟さを思い知らされることとなりました。折も折、日本もコロナ感染拡大で、毎日展も延期が決まりました。時間ができたことで、古典、古筆を臨書し、草稿を見直し、大作でも「かな」の美しさを表現したいと思い、線の流れを意識しながら仕上げました。先生からは「最後まで最善を尽くす」と叱咤激励され、締め切りまで毎日書き込みました。会場での作品は満足できる作品ではなく、反省することばかりであったが、学ぶ事が多く、良い経験をさせていただきました。

第72回毎日書道展 東京2020大会応援企画  
「現代日本の書選抜展示」 九條純代書

企画

が自宅に来られるようになり、休むことは許されず、小学生は学生版、中学生になると大人版の書誌に移り、小筆の持ち方、動かし方から教えていただき、半懐紙作品を書くまでにはなったが、中学3年の時に止めてしまいました。

た時、学びをしたいと思うようになりました。寺では筆を持つ事が多く、書は必修。 「かな」を再び学びたいと思い先生探しを始めた、故下谷東雲先生のカルチャーレッスンに入学しました。後に、先生は夜行列車で安東先生の指導を受けに通っていたと聞き驚きました。東雲先生は歌を書きたいというう

# 書のひろば

理事長 下谷洋子

## 第74回全国学生書道展 搬入・審査終了

第74回目を迎えた全国学生書道展は、10月25日に作品搬入され、半紙、半切½両部門に全国から多数の作品が寄せられました。

### 第74回全国学生書道展出品統計 ( ) 内前回展

	団体数	出品点数	出品人数
半紙の部	155 (150)	10,744 (11,124)	5,655 (6,058)
半切½の部	106 (98)	2,394 (2,201)	1,862 (1,731)

B賞以下特別賞に両部門合わせて296点が入賞し、東京都美術館に展示発表されます。

来年2月5日の表彰式（帝国ホテル）は昨年通り開催、当日前中の大賞受

賞者による席上揮毫会は久し振りに行う予定、会場内でのワークショップも11日(土・祝)午前中開催します。祝賀会は中止としました。

2年間実施出来なかつた揮毫会・ワークショップですので、たくさんの方々の参加をお願いします。

## 書道芸術院創立75周年記念 役員作品巡回展 無事終了

13会場目となつた関西総局展は、奈良公園が黄色く色付きはじめた小春日よりの中、無事終了しました。

今回は、恒例の大坂市立美術館が改装のため奈良県文化会館に会場を移し、11月9～13日まで開催されました。またますが、日本文化発生の地での開催が、巡回展最後を飾るにふさわしい内容となりました。薬師寺長老山田法胤先生による講演は総局長稻垣小燕先生とのご縁で実現し、演題も「書と日本之心」、書に携わる者にとっては貴重なお話で大いに沸き、その後の懇親会は、久しぶりにたくさんの書友と歓談、統いての作品解説も熱心な会員でホールが埋め尽くされました。

審査は11月2～7日にかけて行われ、A賞は2日の事前選考を経て、3日選考委員6名により決定しました。半紙部門から100名、半切½部門から45名、

さまでした。



「香川峰雲の世界」も全て展示された

## 令和4年度書道芸術院創立記念日 講演会 高木聖雨講師により開催

昭和22年11月23日に書道芸術院は誕生しました。毎年創立記念日として講

演会等催してきました。今年も昨年に引き続き上野精養軒にて開催され、今回は日本芸術院会員高木聖雨先生をお招きした講演会となりました。演題は「明清の書」、演題に入る前に、書道が

「登録無形文化財」に登録され、日本書道文化協会がその保持団体となつた経緯や、その後の保持団体としての活動状況などの紹介がありました。

講演資料としては講師が董其昌の卷子、王無咎・傅眉の2幅を持参、また、講師が発刊した冊子も提供していただけ

でホールが埋め尽くされました。コロナ禍の中、記念巡回展は全て開催出来ましたことは奇跡のようなものでした。関係者の役員の先生方、お疲れです。関係者の役員の先生方、お疲れ

書は工夫が楽しい、気満の書など、初

心者にも解りやすいキーワードをはさみながらの解説は、大変有意義で140名程の参加者も充実した時間だったと思います。講演内容は次号にて報告予定。

## 公益財団法人書道芸術院 通常理事会開催

講演会終了後、同会場にて理事会が開催されました。

第76回書道芸術院展、第74回全国学

生書道展について（研究会、表彰式、祝賀会など）、人事について（昇格、移籍、退会など）を審議しました。祝賀会につきましては、コロナ第8波突入もあり中止となりました。

他に、第76回書道芸術院展の評論家の眼について、令和5年度単位認定講習会運営方法、秋季展について、企画委員会について、新会員について、「書道芸術」誌の競書部についてなども報告されました。詳細は次号院報にて確認下さい。

## 第76回書道芸術院展 一般公募・無鑑査作品搬入

本年2月、第75回記念展を開催した本院は、第76回展の一般公募と無鑑査の作品を未表装で11月28日に搬入しました。鑑別審査は、12月10・11日に柳橋の東京文具共和会館で行われます。コロナ禍が続く中での鑑別査です、感染防止対策を行ってすすめていくことになります。

古典を学ぶ大きさや、臨書の仕方、書き参加者に配布しました。

書は工夫が楽しい、気満の書など、初

## 現代詩文書基礎基本講座(31)

小竹石雲

### 【臨書から現代詩文書への展開】

#### ①李太白仙詩卷風のひらがなの表現方法

##### ①李太白仙詩卷風のひらがなの表現方法

##### 表現方法

- ・骨力のある豊潤さを表現するため、やや大きめの兼毫筆を使用した。

- ・弾力のある運筆から生じる間<sup>\*</sup>をうまく捉えて、力むことなく書きたかったが、少々面目すぎた。



「うるのおくやま」

#### ②李太白仙詩卷風の現代詩文書

##### ②李太白仙詩卷風の現代詩文書

##### 表現方法

- ・重心が下がると落ち着くが、鈍くならないように心がけた。



「書は心身を統一し高靜する」

川端康成の言葉

## 前衛書基礎基本講座(7)

千葉蒼玄

前回は線というものを考えてみたが、線は絵画でも存在する。では書の線の特質とは何だろうか。

#### ○書の線とは(特質)

海外でワークショップをすると感じることだが、書を(漢字を)書いたことがない人に太い線を書かせると輪郭をとつて中を塗りだすことがある。例えば①の三角形などは輪郭線を書いた後に中を塗る。書を習った人であれば一度で三角形を書くだろう。なぜなら③の古典(造像記)を知っているからである。



私たちには筆を開閉するということは常識であるが、書の線を知らない人にとってはこの考えは「前衛」なのである。では丸はどうだろう。これも古典の中に存在する。顏真卿である。

- ① ② ③



では、点ではなく四角(“□”という造形)はどうだろうか。①は縦横同じ太さ、②は縦画を太くした、③は横画を太くした、④は変則。このように書の線の特質は1本の筆で1本の線の太さを自由に変化できるところにある。

- ①同じ太さの線 ②縦太横細 ③縦細横太 ④太さを変化



- ・古典の雰囲気を損なうと学書の目的から外れてしまうが、個性的作品制作の観点から考えると疑問が出てくる。
- ・「〇〇風の現代詩文書」と銘打って勉強することの意義とは何かを考えているが:これも個性豊かな作品を創りあげる過程の仕事の一端と思い書いてみたものである。

## 〈お知らせ〉

### —『書道芸術』月例競書出品規定改定について—

(公財) 書道芸術院理事長 下谷洋子

#### ◆令和5年4月より、「書道芸術」誌に書道芸術院展審査会員の方も月例競書の全部門に出品可能です。

現在、書道芸術院展で審査会員に昇格した方は、「書道芸術」誌の規定部には出品出来なくなっています。そこでこの度、3月号(4/15締切)より、本院の審査会員という資格と、「書道芸術」誌での成績は切り離すことにしました。所属部門以外にも学ぶ機会を失わず続けていただくためです。

該当する方の手続きは、下記編集部からのお知らせをご覧下さい。

※なお、春季昇段級試験(4/15締切)に審査会員の方も受験可能です。

#### <月例競書作品出品手続きについて>

##### 【バーコード出品券について】

1. 以前のものを持っている→そのまま使用可能(バーコード番号が「89」から始まっていることを確認してください)
2. 破棄した→再発行手続きが必要
3. 月例競書に出品したことがない→新規作成

※2・3の方は書道芸術院迄申請書を請求してください。再発行には再発行手数料として1人500円分の切手が必要となりますので準備をお願いいたします。

##### 【段級について】

- 不明な方は書道芸術院事務所へお問合せください。ただし、確認できるのは、データ管理が始まった平成16年以降となります、ご了承ください。平成16年以前に取得済段級は自己申告が必要となる場合があります。

◎4月15日締切より出品ご希望の方は、再発行手続きに時間を要する可能性があります。できるだけ2月中に手続きをお願いいたします。

## 書道芸術院創立75周年記念

# 役員作品巡回展

併催 関西総局展

会期 令和4年11月9日(水)～13日(日)  
会場 奈良県文化会館

実行委員長（関西総局長）

稻垣小燕

書道芸術院巡回展は、関西展では従来大阪市立美術館で玄遠社展と併催という形で行われてきました。今年75周年記念展については大阪市立美術館が耐震工事のため使用出来なくなり、加えてコロナ禍の影響で開催が危ぶまれてきましたが、無事奈良県文化会館にて開催することが出来ました。

会場のスペースを考慮関西総局展は漢字・かな・現代詩文書の作品を審査員と審査会員候補のみの132点展示しました。作品は今回展のための新作とし、寸法は半折または90×90の2種類と定め、リズムと安定のとれた展示になりました。

多字数・少字数と入り混じり変化に富んだ展示となり、来られた方々からは明るく非常に見やすく、わくわくしますとの感想をいただきました。

展示会場の中心には「香川峰雲の世

界」と題し、巡回展最終開催地にふさわしいようにと考え巡回展に廻った香川峰雲先生の全作品を展示しました。

一同に並べられた作品群は自由に造された篆刻・刻字の作品、斬新な感覺と発想、現代になお生きている書作品との印象を改めて持ちました。

講演会は、薬師寺長老山田法胤様の「書と日本の心」と題したお話を拝聴いたしました。

書道の原点は正倉院にある古文書「写経」であること、遣唐使がお経を持ち帰り、それを僧侶が写経したことになります。そして写経は明日香の川原寺で天智天皇と天武天皇の兄弟が母・斎明天皇の供養のために写経を集めて「一切経」を書写了ことに始まる

こと。中国から伝わった漢字が写経という必要性の元で広がり、音写として日本人は漢字から一音一字ひらがな、カタカナを作つた。覚えやすく・書きやすく・読みやすい文字を作つていつた日本人の需要力と変換力のすごさを漢文「般若経」と「いろはにほへと」を対比して説明して下さいました。

書に関する内容豊かなお話をやさしくしていただいただけ、90分がアッという間に過ぎた講演会でした。

事長御出席の下に行われました。

辻元先生からは「香川峰雲の世界」について説明を頂き、香川先生の素晴らしさを話され、篆刻・刻字の分野において今もって香川峰雲先生を超える書家は出ていないと話されました。下谷先生は前衛作品について話され、文字性・非文字性の作品について展示作品を示しながら、前衛作品に見られる線と面の表現は筆以外の様々な用具を使っていることを話されました。

毎日新聞の取材が初日があり近畿一円に大きく取り上げられました。新聞をみての来館者もありました。好機に恵まれた75周年記念展は盛会の裡に終えることが出来ました。

開催にあたりご協力いただきました皆様にお礼申しあげます。



陳列風景



巡回展役員作品②



巡回展役員作品①

研究会は辻元大雲顧問、下谷洋子理



関西総局展役員作品



巡回展役員作品③



関西総局展作品



陳列後の稻垣小燕関西総局長挨拶



懇親会で下谷洋子理事長のご挨拶



山田法胤薬師寺長老による講演会

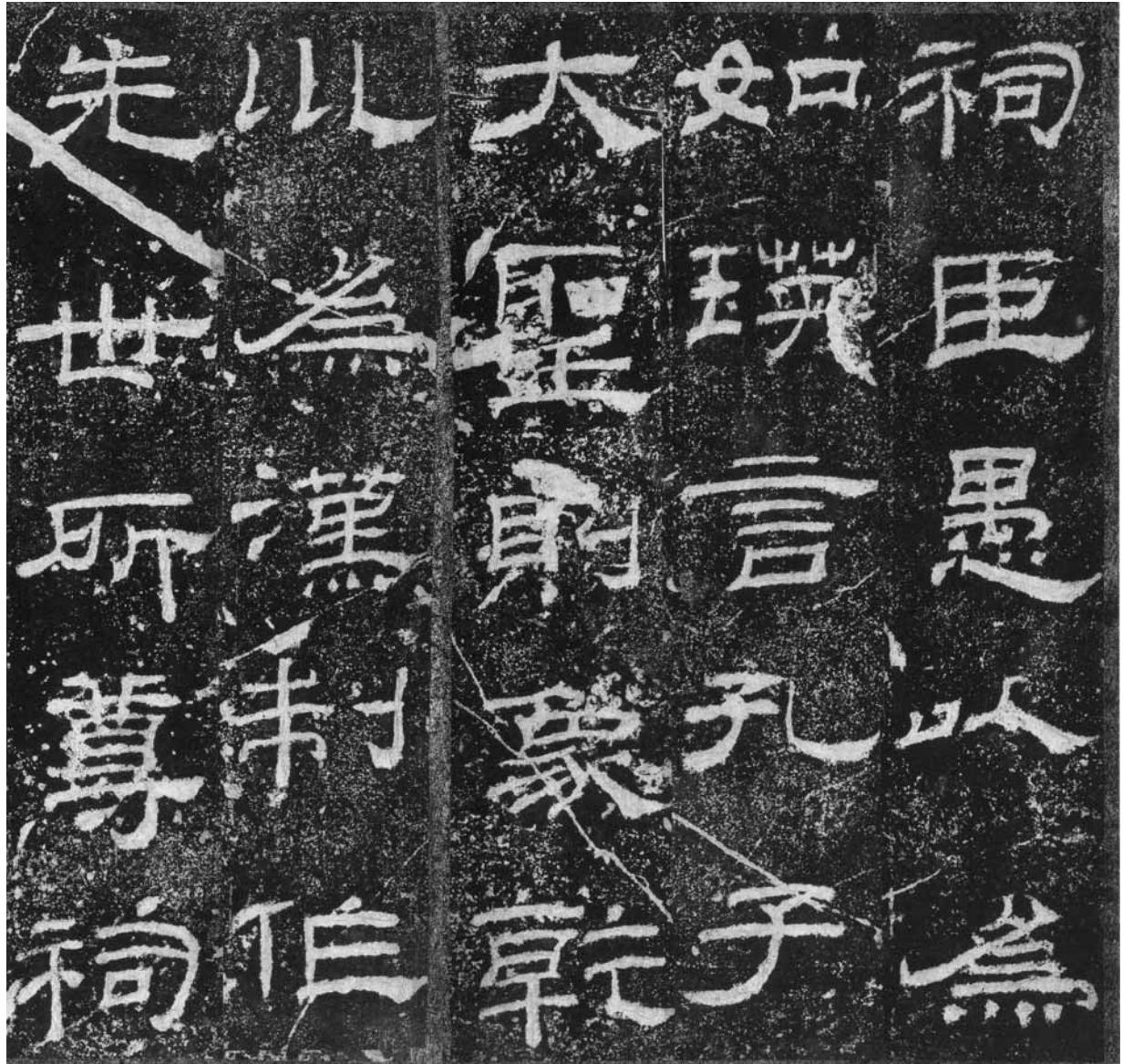


下谷洋子理事長による作品解説



辻元大雲顧問による作品解説

(撮影  
前田龍雲)



(掲載図版・65%に縮小)

いっえいひ  
乙瑛碑③

後漢(153) 筆者不明

祠。臣愚以爲。如瑛言。孔子/大聖。  
則象乾/川爲漢制作。先世所尊。祠。

\* 川は坤の代用

: (米)祠(を給す)。臣愚以為えらく、  
瑛の言の如しと。孔子は大聖にして、  
則ち乾(坤)に象り、漢の為に制作  
す。先世の尊ぶ所なり。祠…。

〈解説〉隸書は、篆書の煩雜な字形が  
簡素化され、丸みの多い筆画が直線・  
方形に変わったものである。漢代の隸  
書の書風は以下のように大別される。  
①素朴で野趣に富み、摩崖に多くみら  
れる。字の大きさや字間など自在で、  
古朴なおもしろさがあり「古隸」と  
よばれるもの。「開通褒斜道刻石」  
「石門頌」など。

②字形はほぼ方形で整い、運筆が豊か  
で、力強く雄大であるもの。「張遷  
碑」「北海相景君碑」など。

③字形は横長で破磔が生じ、筆づかい  
に抑揚があらわれた「八分体」ある  
いは「今隸」とよばれるもの。「乙  
瑛碑」「礼器碑」「曹全碑」など。

※落款を必ず入れる。署名、も  
しくは〇〇臨(押印のみも可)

(編集部)

451

漢字研究部臨書課題

(半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

(A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)  
(B. 小品の部—半切以上半切以内、全紙以内も可(A・B縦横自由))

当該古典の上記掲載  
部分以外も可。

8

古典鑑賞

## かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)  
別紙裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
A. 大作品の部毎日展審会員・会員サイズ以内、2×6尺全紙も可  
B. 小作品の部半切以上、半切以内(縦横自由)  
いずれも左記の掲載以外も可。V

〈よみ〉  
世波利よの やへじとのみおもふよにすみて  
あみゆるよはのつきかな支可那

\* わがことやいねがてにする山山堂 利可利利可利  
ふしかにめをさましつ平佐万  
すぎかてに人のやすらふあきのゝはまねくす支万

支のあれ者奈利希利  
木者乎木者乎  
はぎのはをしどろもどころにふみしだ山堂支  
さをしかのこゑきこゆなり奈梨

※掲載図版・80%に縮小

## 〈解説〉

針切は、二種の私家集で、「源重之の子の僧の集」と「相模集」が書写されている。前者は約55首、「相模集」は約33首現存が確認されている。今回掲載の「相模集」は詞書はないが、「なつ」「あき」「なげき」の部立の部分があり、歌一首一首の間を少しあけて空間を出している。時に1行目に下の句の一部も組み込んで、2行目の行末に大きな空間を出して明るさを一層引き立てている。文字も「僧の集」よりも大きく、大らかに気分の赴くままに書き流していく自由さが見る者に近代的な流動美を感じさせれる。

(編集部)

(個人蔵)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨押印のみも可  
※古筆は原寸(以上も可)  
で臨書しましょ。

名 越 蒼 竹

白雁霜信

(古今詩話)

北方から白雁が来れば霜が降る。



近代以降、木簡・帛書類が続々と発掘発見されました。それらの肉筆書は金属や石に刻され、歴史に記録することを目的とした篆隸書とは違った、大らかさ・自由な雰囲気を感じさせるものが多くあります。書体の過渡期を示す史料としての価値もあるでしょう。実物大の木簡書を見ると、文字の大きさは意外なほど小さいものが多く、時折見せる強調画が印象的で、明るくのびやかさを感じさせてくれます。

謹厳な雰囲気の八分書とは異なり、逆筆は強調せず少し穂先を引っ掛け的程度にしてずばっと運筆し、終筆を押さえないように書くことが大切です。参考作は羊毛筆で書きました。

川島舟錦

仁愛恭儉  
(仁愛恭儉)

(陸寶)

“仁と愛、恭と儉、人の道で尊ぶ  
ぶ四つのこと。人に対していくつ  
しみ、自分自身はつつしみ深いこ  
と。”

書道史では、後漢時代に、礼器  
碑、曹全碑。東晋時代に十七帖、  
蘭亭序。北魏になって、造像記。  
その後、鄭羲下碑。唐時代になる  
と、孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘な  
ど…。篆書、隸書、草書、行書な  
どの後、公文書やお経などを書き  
写す方法として用いられ定着して  
いったのが、最後の書体「楷書」  
だと考えられます。

隸書体や造像記を意識しながら、  
楷書体を書くと、時代背景からし  
ても、鄭羲下碑のようになるのか  
もしません。筆力を鍛えるため  
にも、力強い線質を目指して、藏  
法で書きすすめてみてください。

仁愛恭儉 よみ(仁愛恭儉)

舟錦書

書体=楷書



おのづからいはぬを慕ふ人やあると  
やすらふ(婦)ほ(保)どに(耳)年の(能暮)(見)れぬる

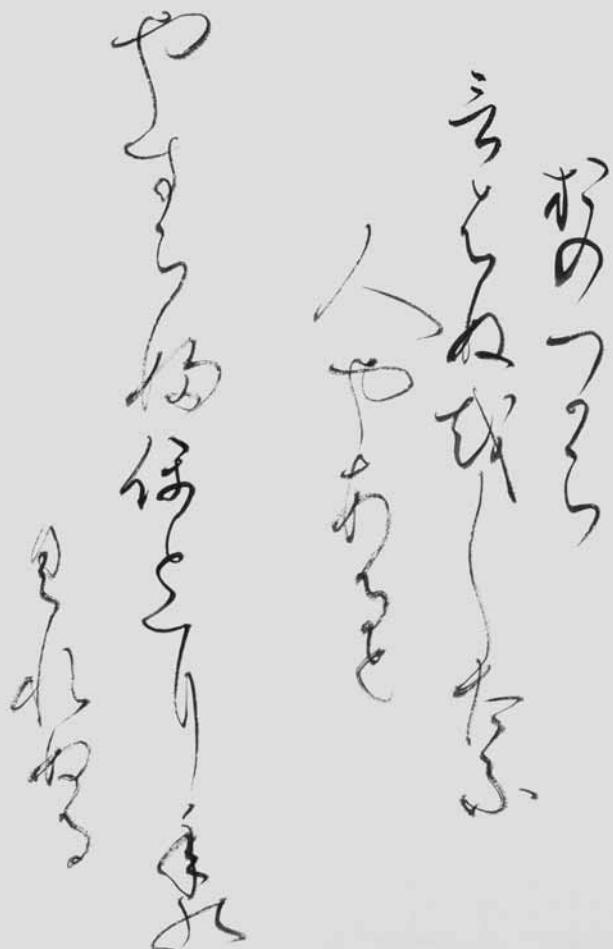
(西行法師「新古今和歌集」)

「ひょっとして何も言わなくても  
慕わしく思ってくださるかと考えて、  
お便りすることをためらっているう  
ちに、今年も暮れてしましましたよ」  
の意。

作品作りの際、いつもの書き慣れ  
た文字ばかりでは味気ないものになっ  
てしまいがちです。時には意識的に  
変えてみる努力をしたいと思います。

今回は関戸本古今集のねばっこく  
リズミカルで、線が多面的で変化に  
豊んでいる等の特徴を意識して書い  
てみました。

日頃より、古筆から何を学び創作  
にどう活かすかを考えて、作品作り  
に取り組んで参りましょう。



よみ方 お(於)のづか(司)らい(言)は(者)ぬを(越)慕(した)ふ人やあると  
やすらふ(婦)ほ(保)どに(耳)年の(能暮)(見)れぬる

創作

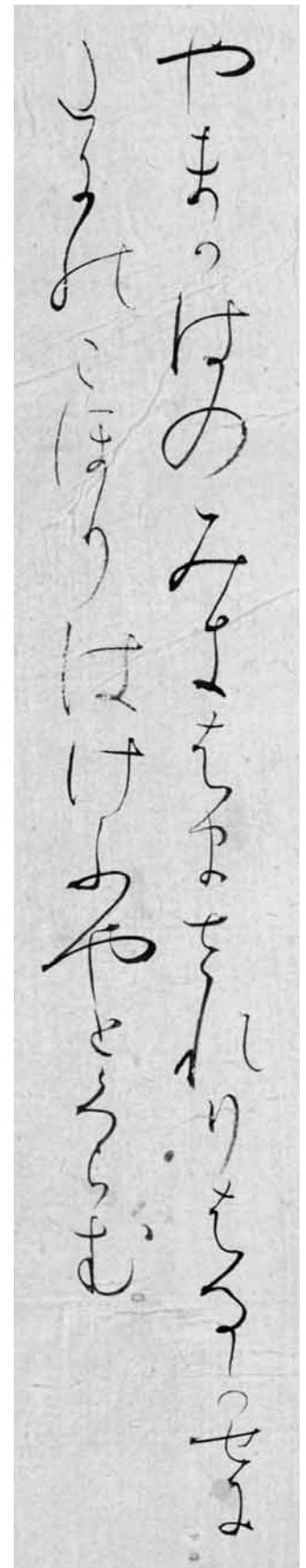
\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使  
用しましょう。

\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使  
用しましょう。

かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 やまか(可)はのみさ(支)は(者)まされりは(者)るか(可)(せ)に(示)  
た(多)に(尔)の(能)こぼりはけふや(とくも)久(らむ)

### 習い方解説 (三)

佐藤 希雲

佐藤 希雲 選書

千足袋の日南に水る寒さかな  
(ほしたびのひなにいはるさか  
(大須賀がおつじ))

かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

いふるの日南に水る寒さ

冬の一日、干した足袋が水って  
いるのを発見し、寒さをあらため  
て実感したという句です。小さな  
ものに注目できるのは心に余裕が  
あるからでしょうか。

漢字が多いので、適宜、かなに  
変えるとよいでしょう。1行書き  
にして、「かな」で墨継ぎし左下  
に添えました。いろいろと工夫し  
てみて下さい。

よみ方 千足袋(ほし多ひ)の日南に水(こ)る(留)寒さか(可)な(奈)

創作

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

### 習い方解説 (三)

小竹石雲



望臘早花緣路見 隨巖寒水隔林聞  
(臘を望み早花路に縁りて見、巖に隨うの寒水林を隔てて聞く。)

書体=自由

今回は曲線も混じえて書いてみました。程度はかなり高くなりましたが、ハードルは高いほど得るものも多くあります。予め全体像のなかで文字の表情、大小、潤滑の変化を考えておくことも大切です。書きこむにつれ自然な流れになりました。私は王鐸を参考にしました。文字の崩しは字典で正しく覚えてください。

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

### 習い方解説 (三)

小林琴水



書体=自由

今回は7文字作品。バランスとしては書きにくい文字数です。横へのりを入れ横広に書いたり、字の大小を考えて下さい。書き出しは画数が多いので、大きくなりすぎないように。また、下部がつまつて苦しくならないようになります。下部に余裕をもつてしましょう。下部に余裕をもつて下さい。

燈花半落夜寒生  
(燈花半ば落ち夜寒生ず)

広瀬舟雲

# 謹賀新年

万事は志をたてるところ

から始まる（吉田松陰）

本年もよろしくお願い申

上げます 田中一郎

令和五年元旦

書体＝自由

## 謹賀新年

万事は志をたてるところ

から始まる（吉田松陰）

本年もよろしくお願い申  
上げます 田中一郎

令和五年元旦 →

出品者の氏名または氏号

「」注意!!

用紙の大きさにばらつきが見られます。  
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

- ◇用紙 ハガキ大 (14.8×10cm) の白紙を使用
- ◇黒インクのペンを使用 (ボールペン・フェルトペン可)

年賀状制作をする頃となりました。ところで葉書課題は、練習した分だけ当然ながら反故となる葉書が出来ます。今盛んに説かれているSDGsの精神を生かすため、今日は表に宛名等を記し切手を貼れば年賀状としても使える課題としてみました。フェルトペンと万年筆両方を使用しました。

※差出人「田中一郎」は一例です。出品者ご本人の氏名または氏号を書いて下さい。  
印は不要です。

師走 寒冷 京都府 奈良県

師走 寒冷 京都府 奈良県

歳の瀬もいよいよ押し詰まつてきました

歳の瀬もいよいよ押し詰まつてきました

三 浦 鄭 街

(楷書) 師走 寒冷 京都府 奈良県

(楷書) 歳の瀬もいよいよ押し詰まつてきました

(行書) 師走 寒冷 京都府 奈良県

基本用語 「師走」旧暦12月の別称。「寒冷」寒く冷たい候。

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)  
◇ 用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可  
◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品  
各部総評 No.738

漢字部 師範 三浦 小樹  
羊毫を用い、滋味溢れる上質な  
渴線が魅力的な行草書作品。地道  
な学書の成果が書の品性を磨く。

◎漢字部総評 上級は端正な楷書  
が多く好感が持てた。また、創意  
に溢れる作も見られた。着実で幅  
広い学書を期待します。(萬城評)



漢字条幅部 師範 田中 岳舟

文字の大小、線の太細、墨の潤  
渴の変化を十分つけ、意志のしっ  
かりした動きが痛快で魅力的な作。  
◎漢字条幅部総評 多彩な表現で  
楽しく拝見できた。一部に誤字や  
稚拙さが目についた。紙面の掌握  
と、書き込みが大切。(石雲評)



前衛書部

特選 貝瀬 佳楓

技術もさることながら制作への  
没入感に微笑みを見る。余白の  
塩梅がそうさせるのかも。

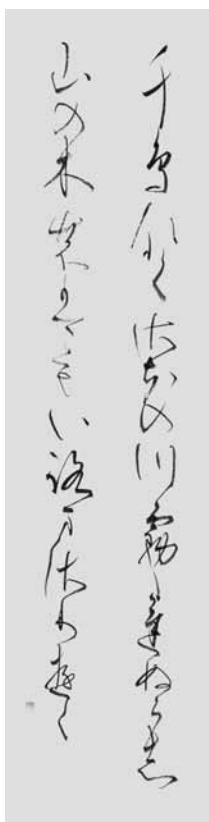
◎前衛書部総評 気迫を感じる紙  
面使用の作品が多く、レベルの高  
みを目指す姿勢に感激。(慧香評)



かな条幅部 師範 七五三木和美

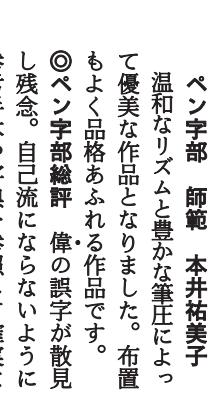
控えめな表現がどれほど見る側  
の想像力を刺激することかと再認  
識させられる。格調高く飽きない。

◎かな条幅部総評 行間に配慮を  
欠いた作、漢字霧の曖昧な作多く  
残念。筆をとる前に正しさを確認  
する習慣を望みます。(明子評)



漢字条幅部 師範 田中 岳舟

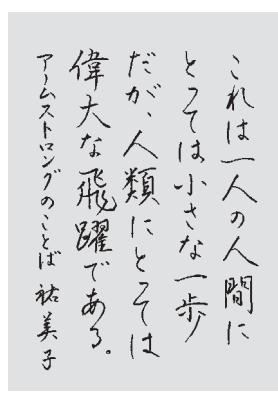
文字の大小、線の太細、墨の潤  
渴の変化を十分つけ、意志のしっ  
かりした動きが痛快で魅力的な作。  
◎漢字条幅部総評 多彩な表現で  
楽しく拝見できた。一部に誤字や  
稚拙さが目についた。紙面の掌握  
と、書き込みが大切。(石雲評)



ペン字部 師範 本井祐美子

温和なりズムと豊かな筆圧によ  
て優美な作品となりました。布置  
もよく品格あふれる作品です。  
参考手本や字典を参照して確實な  
文字を心がけましょう。(季子評)

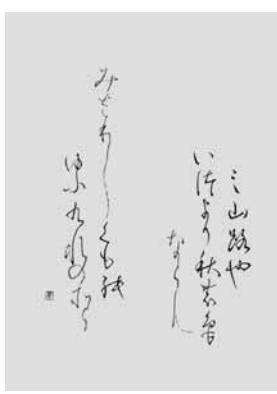
◎ペン字部総評 側の誤字が散見  
し残念。自己流にならないように  
文字を心がけましょう。(季子評)



かな部 師範 佐々木薰子

基本に則った線質が深さを生み、  
濃淡や大小などのバランスもよい。  
この先はリズムの消化を望みます。

◎かな部総評 概ね丁寧に書かれ  
ていたが、大きさの把握が出来な  
い作が散見し残念。かなは筆先の  
弾力を活かして欲しい。(洋子評)



## 実用書優秀作品

選評 岩 壇 若 翠

◎ 実用書部総評

鍊度の高い作品が多く見られた。一方で漢字とかなのバランスや行の通りに留意したい作あり。落款の大きさと位置にも配慮を。（若翠評）

秋雨に煙る日は冷え込み一段と増す  
かで気脈を感じさせる作品。仲井  
特選 金城 智子

神無月錦秋 愛知県岐阜県  
神無月錦秋 愛知県岐阜県

神無月 錦秋 愛知県 岐阜県  
秋雨に煙る日は、冷え込みも一段と増し  
秋雨に煙る日は、冷え込みも一段と増し  
及川明美

特選 及川明美

字形美しく、自然で素直な書きぶり  
りに好感が持てる。

愛知県岐阜県  
愛知県岐阜県

## 前衛書部(特選)

## 現代詩文書部(特選)



詠綾  
紫加代子  
艸雪千子

和沙雅光  
莉悠燐  
香子

心地よい曲線に味わい妙  
パワフルな交差が成功  
洒落を知る人の粹な構成

選評三森慧香

惠泉紅  
莉雨琴  
莉雨琴

斬新な造形で余韻与える  
曲直線を自在に操作し秀作  
爽やかな運筆で心も踊る

美由霞  
真由霞  
景一輝

句の情景と濃墨マッチ  
大字と小字構成明るい  
墨量太細線の運筆感情豊  
密やかな心と運筆の妙  
2行目の細線に眼が集中  
線のねばりと強弱の変化  
詩意と潤渴と構成魅力的  
字間の疏密と空間充実  
リズム感ある横書き爽やか

溪葉翠  
媛葉翠  
煙葉翠

白の空間の黒輝やく  
線の太細の世界自在  
淡墨の潤渴情景豊か  
筆圧をかけた横書き成功  
横書きと縦書きの妙  
構成と集中力に敬服

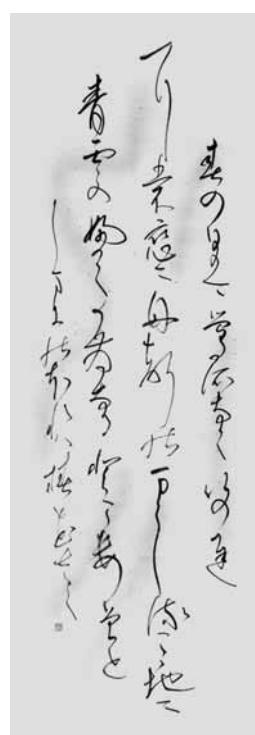
喜代峰  
隆仙  
子

選評山崎掃雪



## 大作の部

かな (奥田)  
藤井清華  
「春の日は」



藤井清華書

180×60cm

◆心ゆくまで楽しんで表現したスケールの大作である。後半にやや右上がりの線が目立つので一考を。(明評)

現代詩文書 (花香)  
藤井花香  
「原 石鼎の句」

90×120cm



藤井花香書

◆紙背に切り込んだ強靭な線が縦横に駆る気迫溢れる作品。筆者の書に向き合う真摯さに敬意を表す。(石雲評)

前衛書 (容洲社) 阿部邑里 「怒濤のごとく」



阿部邑里書

79×182cm

漢字 (大拙社) 嶋中成山 「千載一遇」



嶋中成山書

60×240cm

◆文字構成と共に墨色の変化を巧みに活かし堂々とした創作作品。起筆の処理も一助となつた。(大峰評)

◆文字構成と共に墨色の変化を

紅瑠金井みどり  
秀水門脇信子  
松風西條芳蘭  
蓮紅本田楊風  
玉州角張香雨  
洞書安藤直美  
蓮紅本田美雪  
奥田三宅香楓  
植松梅田紅雨  
「前衛」西川藤家  
「かな」伊澤香雨  
水塹香楓  
「漢字」もく西川藤家  
「漢字」藤井清華書

書游庄司咏艸  
千葉竹浪芳蘭  
大雲江本香雨  
千葉猪又理扇  
「かな」  
「漢字」

金井みどり  
信子  
芳蘭  
香雨  
西條  
本田  
美雪  
三宅  
香楓  
梅田  
紅雨  
西川  
藤家  
伊澤  
香雨  
もく  
西川  
藤家  
藤井  
清華  
書

総出品点数  
37点

かな  
1点

漢字  
8点

漢字  
4点

漢字  
4点

## 大作の部

漢字研究部  
(乙瑛碑)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



高橋志朋

幽讚神明故  
特立廟衰成  
矣四時來  
事已即成

芝香臨

成矣

美津子臨  
事已即祠

美津子臨  
禮器無常

申澤臨  
無常

山下臨  
事已即祠

ふ竹春美芝陽  
津で鳳華子香子

祠事已即成  
立廟衰四時  
來事已即成

萬代臨  
成矣四時來  
事已即成

風品臨  
廟衰故特立

紅霞臨  
立廟衰故特

申澤臨  
成矣四時來

萬代臨  
時來

裕清玲鳳藤哥  
子麗子晶邑代

衰成矣四時來  
事已即成

笠流岐  
神明

美娟臨  
矣衰四時來

藍水  
廟衰

雪室臨  
特立廟衰成矣

萬代臨  
廟衰成矣四時來  
祠事已即去廟有

敦裕紅悅勇麗  
美子子霞子翔流

衰成矣四時來  
事已即成

萬代臨  
明故

美娟臨  
神明

藍水  
衰成矣

雪室臨  
衰成矣四時來

萬代臨  
明故幽讚神

寛雪藍美雅菊  
子篁水梢芳枝

漢字研究部 特選 高橋志朋  
筆力強く勢いがあり、波磔にも力強さがあります。特徴をよく捉えた見事な作です。臨書に向かう真摯な姿勢が窺えます。乙瑛碑について深く掘り下げて学んでいくとより一層奥行きのある臨書作品となります。

◎漢字研究部総評

今回の課題は隸書です。乙瑛碑の原帖は見やすく、波勢・波磔・転折に非常に特徴があ

り学書に最適です。臨書するにあたっては筆を執る前にじっくりと字形を観察し、全体を眺めて雰囲気をつかむことが大切です。出品作の中には、もっと正確に捉えて取り組んで書く必要があるものが多く見受けられ残念に思いました。折角の学びの機会です。完成度の高い作品を目指して学習してほしいと思いました。

## か な 研 究 部 (針切)

選評 奥田 瑞舟

今月のホープ作品



暨山美校

かな研究部  
グレーの段染めの料  
歯切れよく連続してい  
くポイントを見逃さず  
◎かな研究部総評

かな研究部 総評 鶯山美梢

グレーの段染めの料紙に、針切の命である鋭く  
歯切れよく連綿していく良さが、墨の濃淡も美し  
くポイントを見逃さず思いきり良く臨書された。

◎かな研究部総評

10字前後の長い連綿、線の太い細いの変化と余  
白、字形の幅、長短、行頭、行末の変化と難しい  
一葉を良く研究させていた。臨書では珍しく誤字  
が多く見られたのは残念。

かな研究部成績表

おめでとうございます

## 祝 名越蒼竹先生

### —瑞宝小綬章受賞—

(令和4年11月3日)



・(公財)書道芸術院理事  
書道芸術院展常任総務

漢字部審査会員

本院理事の名越蒼竹先生は、長年にわたり公立高等学校校長として教育目標実現へまい進された功績により、秋の叙勲で瑞宝小綬章を受賞されました。心より御祝い申し上げます。

## 祝 金井如水先生

### —令和4年度地域文化功労者表彰受賞—

(令和4年11月7日)

・書道芸術院展名誉会員  
前衛書部審査会員

本院名誉会員金井如水先生は、永年にわたり群馬県書道協会会长など地域文化の振興に貢献された功績により、文化庁の令和4年度地域文化功労者表彰を受賞されました。心より御祝い申し上げます。



## 祝 杉本敦子先生

### —八戸市文化賞受賞—

(令和4年11月3日)



・書道芸術院展常任総務  
前衛書部審査会員

本院常任総務の杉本敦子先生は多年にわたり書の普及及び、後進の指導育成につとめられ文化の振興と発展に貢献された功績により、八戸市文化賞を受賞されました。心より御祝い申し上げます。

# 第76回書道芸術院展

## 併催=第74回全国学生書道展

会期：令和5年2月5日(日)～11日(土・祝) 6日(月) 都美休館日  
9:30～17:30 (入場は30分前まで) ※11日(土・祝)は14:00閉室

会場：東京都美術館（上野公園内）  
〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 TEL 03-3823-6921(代表)

主催：公益財団法人 書道芸術院

後援：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社  
(一財)毎日書道会

《表彰式》令和5年2月5日15:30～(受付15:00～)  
帝国ホテル 富士の間

《作品解説会》東京都美術館展示会場

- ・令和5年2月8日(水) 10:30～ 一般・無鑑査作品を中心に
  - ・令和5年2月8日(水) 14:00～ 秋季展推薦作家を中心に
  - ・令和5年2月11日(土・祝) 10:30～ 役員作品を中心に
- ※祝賀会は中止

# 第74回全国学生書道展

## ・全国学生書道展指導者作品展示

会期：令和5年2月5日(日)～11日(土・祝) 6日(月) 都美休館日  
9:30～17:30 (入場は30分前まで) ※11日(土・祝)は14:00閉室

会場：東京都美術館（上野公園内）学生展展示2階 第2展示室  
〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 TEL 03-3823-6921(代表)

主催：公益財団法人 書道芸術院

後援：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社  
(一財)毎日書道会・毎日小学生新聞

《席上揮毫会》令和5年2月5日(日) 10:00～

東京都美術館学生展会場

《表彰式》令和5年2月5日(日) 13:00～(受付12:00～)  
帝国ホテル 富士の間

《ワークショップ》令和5年2月11日(土・祝) 10:00～

学生展展示会場

## ●篆刻

【一月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

### ①摹刻

(ア)課題による語句  
(イ)原印自由  
(出典の際、原印のコピー添付)

### ②創作 語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

## 12月号 摹刻課題



### ◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏名)を入れる。

## 738号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

### 摹刻

### <特選>



「張少原」

### 創作



「横濱國際」

(摹刻)	
北遊雲小日	大雲秀
成中川研能喜	小沢作(50音)
皓治洋華仙	林淳一特選
(選外1名氏名略)	水蒼原芳琴
生大高橋吉原	大雲茎大網
(選外1名氏名略)	高庄山鶯片岡
大雲高橋進申	秀汀美梢
空華唯	小野寺幸喜
(選外なし)	豪峰峰
(創作)	
宗粹生慈石	大空心秀
菟仙大佐藤茂	佐藤作(50音)
昌本木井	佐藤希雲
龍義則山峰	佐藤希雲
游遊唯一	花笙恵秀
荒川赤逢沢	阿部伊澤
空華唯	高橋雅悠
(選外なし)	橋本清珠

### ◎篆刻部総評

今回は大変、質のよい作品が寄せられました。特に摹刻でかりとしている。今後は創作に挑戦を。

確実な刻法で整然としている。各、点画の処理が見事である。

原印観察の度合は非常にしっかりとしている。今後は創作に挑戦を。

(大峰評)

1か月の購読部数が  
1部～9部までの1回の郵送料  
送 料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は  
送料免除

令和四年十一月二十五日印刷  
令和四年十二月一日発行

定価 一部 七五〇円

編集兼 下 谷 洋 子

発行人 印 刷

アーティスト  
クリエイターズ

株式会社 リンクス

印 刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

101-0031 東京都千代田区東神田一丁目六七

電話 (03)3861-1954

FAX (03)3861-1955

振替 00150-4115055

ホームページ http://www.lms.co.jp/shohei/

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は  
東京都千代田区  
東神田一丁目六七  
東神田プラザビル三階  
101-0031 電話(03)3861-1954  
FAX(03)3861-1957  
※お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日～金曜日九時～十七時の間  
にお願いします。(土・日・祝日は休む)

コロナ禍の中、当分の間十時～  
十六時に時間の変更しております。

公益財団法人 書道芸術院  
101-0031 東京都千代田区  
東神田一丁目六七  
東神田プラザビル三階  
電話(03)3861-1954  
FAX(03)3861-1957  
振替 00150-4115055